



情報社会学部 情報社会学科 團 康晃（だん やすあき） 准教授

Web小説が変えた、中学生のコミュニケーション 昭和初頭～戦後の骨董趣味を雑誌メディアから検証

■ 中学生のコミュニケーションの変化。読んでいる小説や読後の反応を手掛かりに、コミュニケーションを図る。

團康晃准教授は、社会学やメディア論を専門としており、2009～2011年にかけて、中学生が休み時間にどんなメディアを使って過ごしているかを現地調査しました。その調査から團准教授は、休み時間にどんなアイテムを持ち込み何をしているかで、生徒たちがお互いのアイデンティティを認め合っていることに着目し、研究を続けています。生徒が学校に持って行けるアイテムには制限があり、その中でも紙の本は教師に咎められることなく机に出せます。Web小説やアニメ作品を書籍化したものは、2000年代の「朝の読書運動」をきっかけに、学校に持ち込まれるようになりました。團准教授は「生徒はどのジャンルを読んでいるか、どんな感想をもっているか、持っている人にどんな反応を示すのかなどを手掛かりに、相手の人柄を推測し、円滑なコミュニケーションを図っている」と指摘しています。

また、團准教授は、ソーシャルメディア上でWeb小説が作られる過程の研究も行いました。小説投稿サイトでは、話を1話ずつ投稿することができ、その話に付けられた読者の感想・コメントを作者が読んで、作品の展開が影響を受ける場合があります。團准教授は「ソーシャルメディアは作者が読者のニーズを拾いやすくなっている。ある種の読者層に最適化されたエンタメを生み出すための場になっている」と言います。そして、こうした場で生まれたコンテンツが、学校の中の読書ともかかわっている可能性があるのではないかと話しています。

学校の外にあった若者の文化が、書籍というメディアに化けて、“学校らしい教養コンテンツ”で統一されていた教室に、今も流入し続けています。また、タブレット端末という新しいアイテムが、コロナ禍を経て教室に持ち込まれ、急速に広まりました。團准教授は、生徒間だけでなく、教師を含めた学校全体のコミュニケーションが変わってきていると考えています。

■ 昭和初頭から戦後の骨董メディア4誌の目次をデータベース化。思想、流行、文化人の人的交流を検証。

團准教授は、メディア論の視点から個人の趣味やその趣味が広まる過程でメディアがどんな影響を与えているかも研究のテーマとしており、近年は骨董の分野について調査しています。

團准教授は、昭和初期に創刊された大衆向けの骨董雑誌『工藝』『陶磁』『茶わん』『星岡』の廃刊までの目録をデータベース化し、数理的手法を含め多角的に分析することで、雑誌ごとの執筆者の傾向、議論の展開、人的交流などを検証しています。またそれぞれの雑誌の廃刊時期や雑誌名の変遷からは、刊行時の日本の風潮や国策の影響を読み取ることができます。

この研究は2023年のサントリー文化財団の研究助成「学問の未来を拓く」の助成対象でもあり、2024年の秋頃に研究成果が出版される予定です。

團康晃 准教授 プロフィール 詳細はこちら⇒ <https://webj8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?resId=S000194>

1985年生まれ、長崎県出身

経歴：2011年東京大学大学院学際情報学府博士前期課程修了、2020年博士号（社会情報学）取得。

2017年から現職。

著書・論文：『〈研究ノート〉雑誌『茶わん』に見る骨董趣味の展開』（2023年・単著・大阪経大論集）

『運動としての大衆文化：協働・ファン・文化工作』（2021年・共著・水声社）

『楽しみの技法：趣味実践の社会学』（2021年・共著・ナカニシヤ出版）

『学びをみとる：エスノメソドロジー・会話分析による授業の分析』（2023年・共著・新曜社）

『社会にとって趣味とは何か：文化社会学の方法規準』（2017年・共著・河出書房新社）

所属学会：日本社会学会、日本メディア学会、三田図書館情報学会

< 本件に関するお問い合わせ先 >

大阪経済大学 企画部広報課 高濱、東 Tel: 06 - 6328 - 2431 Mail: kouhou@osaka-ue.ac.jp

大阪経済大学 広報デスク（プランニング・ポート内） 福嶋、井上 Tel: 06 - 4391 - 7156

<https://www.osaka-ue.ac.jp>